

2014年(平成26)5月

カルメル 霊性センターニュース



青いケープを着たマドンナ / 15世紀 木彫 サンドミエシ司教区博物館

「101のマドンナ」塚原琢哉著より

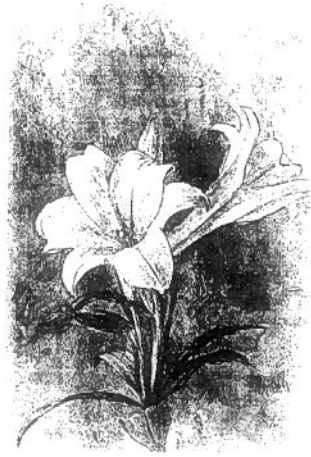
2014年5月

298号

目次

| | |
|--------------|----|
| 心の泉 | 1 |
| カルメル会の企画案内 | 17 |
| 諸所の企画案内 | 29 |
| 年間購読(郵送)のご案内 | 40 |
| 編集後記 | 41 |

心の泉





第二巻

第五章 自分を反省する

1 だまされてはならない

私たちは、あまり自分を信頼してはならない。私たちは、能力と分別とを失いがちだからである。私たちの心の光はかすかである。しかも、自分のなおざりによって、それさえも失ってしまうのである。私たちは、自分の心がいかに盲目であるかにさえ気づかないことがある。私たちは、しばしば悪をおこない、さらに悪いことには、それを弁解しようとさえする。私たちは欲望に支配されているのを、熱意と思いこむことがある。また他人の小さい短所をとがめるが、自分の短所は、それよりも大きくても見のがすことが多い。他人から受ける苦しみには非常に敏感であるが、自分のために他人がどんなに苦しんでいるかには、気をとめようもしない。自分のおこないを、よく、正しく反省すれば、他人を厳しく裁く理由はないと悟るであろう。

2 自分のなかに入りなさい

霊的な人は、どんな配慮をするよりも、まず自分の靈魂のためを考える。自分に注意している人は、軽々しく他人のことも話さない。他人について話すのをやめ、自分を反省しないかぎり、いつまでも霊的で敬虔な人にはなれないのである。自分のことと神のことに深く心を配るなら、外部の出来事には、さほど動かされないであろう。自分自身のなかにはいない時、あなたはどこにいるのか。たとえ全世界を歩きまわっても、自分をおろそかにするならば、何の益があるであろう。真の平和を味わい、心の調和を得ようと思うならば、あなたはほかのことを全部さしおいて、まず自分自身だけを目の前に置きなさい。

日々神と親しく生きるには

— 5 —

ご復活おめでとうございます。



復活の主日の次の日曜日をヨハネ・パウロ2世は「神の慈しみの主日」と定められました。その後、この主日の前晩に教皇が帰天されたことを思い起こされる方は多いと思います。今年の「神の慈しみの主日」には、福者ヨハネ・パウロ2世と福者ヨハネ23世がともに列聖されることになっています！教会のこのよろこびのうちに五月のマリア月、わたしたちも日々の生活において教会の母マリアを通して示される神の慈しみへの信頼を深めていきたいものです。

母マリアは わたしたちが困難のさなかにあるとき、
闇夜を歩いているとき、
神の慈しみの愛を 母としてすぐそばで示してくださいます。
救い主であるイエスの傍らには、
必ず母、マリアがおれます。*

～幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd～

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『神と親しく生きる いのりの道』（聖母の騎士社）より

人を赦す (8)

くのり 九里 彰

前回、前々回からコンプレックス（複合感情）について触れている。「この世」の人は、複合した感情、すなわち優越感と劣等感が合わさった心の状態にあるため、ある時は尊大になり、ある時は卑屈になる。周りの人の評価によってくるくる変わり、自己評価にこだわる心から、まったく自由になっていない。

信仰の世界に入るということは、そのようなコンプレックスにとらわれた状態から解放されることだとも言える。神の無限のいつくしみの世界に入ることによって、この世の評価、人間が人間に対して行う評価は、神の前には空しいことに気づくのである。それに気づくとき、人からほめられても大して嬉しくもなく、人からけなされても大して悲しくもないのである。言うなれば、皮膚の表面を風がなで、時に棘が刺さるようなものである。

同じようなことだが、人の評価が気にならなくなる他の理由として、神の前での自己認識の徹底を挙げることができる。すなわち、自分は神の前に無であり、罪人にすぎないということをはっきり悟るのである。自己認識の重要さを絶えず強調したアビラの聖テレジアは、『靈魂の城』でたとえば、こう言っている。（同様の発言はあちこちに散見される。）

人からよく言われることは、彼（訳注：聖女自身のこと）にとっては、また別の苦しみ、それも、前に述べたものより、もっとつらい試練になるのです。というのは、もし自分の内に何かよいものがあるとすれば、それは、神のくださったものであって、少しも自分から出たものでないとはっきり知っているからです。ほんの少し前までは、自分はひどく貧しく、大きな罪の中に暮らしていたのですから。それで、人からの賞讃は、少なくとも初めのうちは、耐えがたい苦しみになります。のちには、いろいろな理由から、それほどでもなくなります。まず第一に、彼は人々がどれほど、ほめるにもけなすにも早いか、ということを経験によって、はっきり教えられるので、もうそのどちらに気にしなくなります。第二に、主は彼にもっと大きな光を与えて、よいものは何一つとして彼のものでなく、すべて、ただ、いと高き神からの賜物であるということをお示しになるので、彼は、ただひたすら神を讃えるばかりです。（6M4）

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (80)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

豚の罪のため

おそらく 1568 年の 11 月のことと思われます。十字架のヨハネは、その時、アンダルシアの管区長代理でした。彼がラ・マチュエラ（ハエン）の修道院を出て、グラナダへ行くことになりました。修道院の院長と他の者たちに、一週間以内にもどるので、共同体の生活をしっかり守るようにと言いました。ヨハネ修士が姿を消すやいなや、院長と聖人の補佐は、バエサへそそくさと出かけました。それは、「窮状の時のためにと、仲間が持ってきていた豚を売るため、それによって別の豚と新しい修道院に必要な物を買うためでした」。

けれども、何てことでしょう。十字架のヨハネは、予め言っていた時よりも早くもどってきてしまいました。彼は、彼らがどこに行ったのかを尋ね、使用人に手紙を持たせて、探しに行かせました。手紙には、こうありました。あなた方は不従順であったゆえに、「この後は、フエンサンタの修道院へ行き、そのメンバーとなりなさい」。

使いの者がたずさえてきた手紙を読んだ彼らは、「言うなれば、大いに悲嘆にくれながら、自分たちが買った豚と何枚かの毛布を使用人に渡し、従順を果たすためにフエンサンタへ行きました」。

その懲罰が聖人によってほぼ強制的に彼らに課されたために、二人の不満は大変なものでした。彼らは直ちに従いましたが、おそらく他の場合のように、課された償いをよく果たしたと言ってくれる第三者の取り成しを、聖人は受け入れたことでしょう。このような場合の取り成しとして、十字架のヨハネが考えていたのは、兄弟愛のすぐれた行為とか、逆に、罰の知らせを自分には無縁のこととは考えず、それが免除されるようあれこれ工作しないことでした。そうしないならば、兄弟愛の欠如と見なされました。聖人たちは、何という考えを持つことでしょうか。



「パンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった」(ルカ 24, 30)。

今日も、復活し、栄光化されたイエス・キリストは、エマオの二人の弟子の面前で行われたと同じように、わたしたちの前で、「パンを取り、賛美の祈りを唱え」られます。旧約の詩編の中の賛美の祈りの代表的なものは、詩編 136 ですが、このように歌われています。「恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。ただ一人驚くべき大きな御業を行う方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。英知をもって天を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。…エジプトの初子を討った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。イスラエルをそこから導き出した方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。…すべての肉なるものに糧を与える方に感謝せよ。慈しみはとこしえに」(詩編 136, 1. 4-5. 25)。復活したイエスの中で、この賛美の詩編は、十全的な意味を獲得するのです。天地の創造から、人間の墮罪、地上のイエスの生涯から見えてくる罪と戦い、しかし、罪人を赦し、育む神の限りない愛、罪の贖いのために渡される十字架の死。「パンを裂いてお渡しになった」、この言葉には、受難に身をゆだねるイエス、十字架の上でのイエスの最後の生き様、「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます」、そして、小さい人たちのご自分のすべてを渡したイエスが、凝縮しているのではありませんか。「すると二人の目は開け、イエスだと分かった。」何が、分かったのでしょうか。このイエスは、死んで滅びてしまうのではなく、今も、生きていと分かったのです。「その姿は見えなくなった」。復活したイエスは、もはや、弟子たちの目の前に、弟子たちの外部に見られるものではなく、弟子たちの内面に、弟子たちの心のもっと深い底辺に降りられ、弟子たちの心も体もすべてに新しい活力を与える方としておられるのです。そして、弟子たちの目を通して見ておられ、口を通して語っておられ、手を通して働いておられ、心と愛を通して愛しておられる、このことが分かったのです。

イエスの死と復活に証しされた慈しみに包まれ、赦され、浸透され、新しいものとされるわたしたち。復活者イエスは、今日の苦しみ、貧困に喘ぐ世界の中で、この慈しみに気づき、賛美し、感謝することができる者を、そして、ご自分のすべてのものへの慈しみを実行し、実現する喜びに参加し、共に働く者を呼び出しています。復活者イエスによって、「目が開かれ、すべてが分かった」人間と変えられているのです。 ルカ 渡辺幹夫

復活節 第4主日 (A)

みことばのひびき

「わたしは羊の門である。」

(ヨハネ10:1~10)

復活節第4主日は、カトリックの新しい典礼暦では「良い羊飼いの主日」といわれます。最近、この日は司祭職や修道生活への召し出しのために祈る「召命の日」として知られるようになっていきます。

ヨハネの福音で、イエスはご自分を良い羊飼いと呼び、まかされた羊の世話をすると約束されます。当時、羊飼いは羊の先頭を歩き、牧草地や水場、避難場所への安全な道を探しました。羊は羊飼いについて行きました。羊はその声に分り、信頼したからです。良い羊飼いとしてのイエスのイメージは、イエスが常に私たちの人生の旅路の支えであることを保証しています。人生の歩みの中で困難に出あったり、厳しい問題に直面するとき、良い羊飼いであるイエスの存在は、私たちが見捨てられていないこと、イエスが私たちを支持し支えてくださっていることを保証しています。

この日は「良い羊飼いの主日」であると同時に「召命の日」です。特に福音を広める仕事をする指導者を教会に与えてくださるように祈ることが求められています。現在、このような伝統的な意味での指導者、即ち司祭や修道者たちの不足が危機的状態にあります。とはいえ、司祭や修道者としてではなく、人々を神に導く一般信徒が必要な指導的立場の人として与えられるように教会は祈ります。私たちは召し出しという言葉の意味をはっきりさせる必要があります。召し出しという言葉に対してあまりにも長い間、あまりにも狭い意味を持ってきました。私たちは召し出しを司祭になることや、修道会のメンバーになることに限る傾向があります。しかし、実際には私たち一人ひとりが召し出しを持っています。私たちは結婚し、親になる者、教師、医者、役人、経営者、セールスマン、等々に神から召されています。これには神に対する忠実さ、自分が選んだ仕事に対する忠実さが求められます。神は私たち一人ひとりが福音宣教のために働くように呼んでおられます。今日、教会は神の召し出しの意味を考え、召し出しのために祈るように招いています。全てのキリスト者の共同体が召し出しを育む責任を共に分かちあっていることを思います。教会は宗教上の兄弟姉妹として心、精神、身体、靈魂の奉献を通して宗教生活の美しさを強調するように求めています。神に捧げられた一人ひとりが常に教会の最前線にいるというわけではありませんが、この人たちはキリストの体のバックボーンなのです。

「良い羊飼いの主日」を祝うとき、私たちが主の良い羊となり、注意深く羊飼いの声を聴き、自己を犠牲にする主の愛のお手本に倣うことができるように祈りましょう。また、全ての羊飼いの、特に宗教上、政治上の指導者のために祈りましょう。羊に仕え、羊のために自分の命を投げうたれたイエス様のお手本に倣うことができますように。私たちの羊飼いであるイエス様は、道であり、真理であり、命です。イエス様は一匹の迷い出た羊をつれ戻すために99匹の羊を残して探しにいく方です。教会は今日、召し出しはキリスト教徒の家族の責任であると強調しています。召し出しを育むためには、家族はキリスト者の生活を育んでいかなければなりません。家族は一致と祈りによる日々の土台のもとにキリストへの信仰を生きなければなりません。

(Sr. Paulina)

「今から、あなたがたは父を知る。いやすでに父を見ている」(ヨハネ 14, 7)。

今日の福音は、時計の針が逆戻りしたような印象を受けます。この福音は、受難を目前にする最後の晩餐での決別の言葉、その長い論述の中ほどにあるものですから。その離別の講話は、「世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」(ヨハネ 13, 1)で始まっていました。「この上なく」と訳されている単語は、愛の質・量だけではなく、愛の持続、世の終わりまで時間の続く限りこの地上に生きる最後の弟子に到るまでも、包み込むイエスの愛を指しています。ですから、最後の晩餐の席上にいる弟子たちだけではなく、彼等の言葉と生き方により宣教される福音に信じ、自分を委ねるすべての者たち全員に、等しく視野に収める言葉です。このイエスの愛に包まれて、今日の福音の言葉も読まれるべきです。このイエスの愛こそ、それは、御父の愛の受肉なのですが、わたしたち、世の変遷の中に生きる者たちすべてがより頼む磐石な地盤、揺らぐことのない土台です。この基盤が、どれほど堅固なものか、地獄の門もこれに勝つことができないほどのものか、を、イエスは、死を経て復活の栄光に入れられることで、これを証明しています。実に、イエスは、死をなくすることで死を克服したのではなく、むしろ、死の真っ只中を無傷で通り抜けることで、死を新しいもの、それまでは人間には閉ざされていた次元に開かれてゆくものとし、過ぎ越すことで、死を征服したのです。「わたしは道であり、真理であり、命である」。イエスの前にはこの道はなかったのです。イエスの後に道ができてい、いや、イエス自身、その生き方そのものが道である。人間の知恵、思索が発見、あるいは発明した道ではなく、イエスが、天から降り、地上の生を極限まで行きぬくことで、わたしたちに見させてくださった道である。わたしたちが辛い、困難な地上の状況を生きているとき、恐れず、すべてを神に信頼し、イエスの生き方を模倣しているとき、わたしたちは、復活した主イエスに手を取って導かれ、御父のもとにまで導かれている、そして、そこにしかない平安と充実包まれている、この自分に出会うでしょう。「わたしを通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」。イエスを通過して、御父のもとに到達するのではなく、イエスと共にこの世の命のすべてを歩んでいる、その時、御父との親しい出会いを刻々に生きているのです。それは、わたしたちのこの地上の旅路が終わった後に、死の向こう側にある、と言うよりは、今の苦しみも辛さもある命の中での御父との出会い。「今から、あなたがたは父を知る。いやすでに父を見ている」。わたしたちの復活体験と言えるものはこれです。ルカ 渡辺幹夫

今日の福音のテーマは聖霊による神の現存です。イエスは弟子たちに言われました。「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」ここでイエスは“愛”という言葉強調なさいます；普段よく使われる言葉ですが、実践するのは難しいことです。イエスはまた言われます、「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である」と。このイエスの言葉に従うとき、わたしたちはイエスの望みを遂行するのです。ヨハネに対してたった一つの愛の試みがあります、それは従順です。イエスが神の愛をお示しになったのはヨハネの従順によるものでした。わたしたちもイエスに対する愛を従順によって示さなければなりません。この世には様々の愛があります。イエスの思いの中にある愛は意味深く実行することはやさしくありません。この愛は従順によって示されます。神に対する完全な従順、神に対する全き信頼に満ちた愛はわたしたちを神の啓示へと導きます。イエスはわたしたちへの深い思いやりを示し、イエスと共に歩むキリスト者の日々において、わたしたちを独りぼっちには決してなさらないと仰います。「父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。」

神はわたしたちを愛し“別の”弁護者を送ってくださるとイエスは弟子たちに説明なさいます。イエスご自身弁護者なのでここで敢えて“別の”弁護者が来てイエスの使命を続けると言われたのです。弁護者は、調停人、保護者、被告人の弁護者、悲しむ者の慰め手です。父が送ってくださる真理の霊である弁護者は、イエスに代わって証言し、世の終わりまで弟子たちのうちに住み、その賜物と恵みは弟子たちの心を勇気づけます。聖霊の賜物はキリストの弟子たちの上に下りましたが、全世界の上にはありません。これは神が選ばれた人々に与えられる特別の恵みです。聖性と真の幸せの源泉として、聖霊は全ての神を信じる人々のうちに永遠にお住まいになるのです。

「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」これは今日の福音の結論です。この主の言葉を受け入れるとき、わたしたちは神のいのちの交わりの中に生きる心のあり方を学びます。神のいのちの中に入れていただくために、イエスがこの地上の生活ではっきり示して下さった御父への愛と従順を学ばなければなりません。わたしたちは固執することなく、イエスの掟を守っている他の民族に示されたイエスの愛をも大切にする必要があります。イエスのよい弟子は頑固に義務を守り、個人的な恵みの状態を必死に守り続けるような者ではありません。わたしたちが、友に対しても敵に対しても、親しい人にも見知らぬ人にも、誰に対しても自分を開いて愛すべき存在になるとき、イエスの霊、聖霊はわたしたちのうちに住み、わたしたちを変容させてくださいます。このとき、わたしたちはイエスのみ言葉によって物事を理解し、十分に神のいのちを生きる者となります。

(Sr. Paulina)

息子から送られてきた一葉の写真に見入っています。

息子の息子が自分の息子を抱いている写真です。 ひどく込み入っていますが、私の孫とひ孫が写っているのです。

ひ孫は、昨年暮れに切迫流産のために予定より2か月も早く誕生しました。体重は1500やっどでした。呼吸も栄養保持も自力では叶わないままに生まれてきたのです。若い父親と母親、家族は、心配やら安堵やらのこもごもの思いのなかで労苦の日々を過ごしましたが、小さな小さな身体には大きな大きな生命力を恵まれて、今年2月には退院することができました。現在では体重も順調に増えているようで、生きることへと導き助けてくださったあらゆるすべてに深く感謝しています。

この写真を初めて目にしたときのことを忘れられません。

集中治療室のガラス越しに撮ったのだといいますが、父親である孫は静かに目を閉じています。シャツの前を大きくはだけて裸の胸の上にわが子を乗せ抱きかかえています。それこそ掌にすっぽりと収まってしまうほどの、一瞬息をのむほどの小ささなのです。幼子も裸です。

肌を触れ合わせ心臓の音が重なるかのこの形は、医学的見地からの一つの方法で、免疫力などに効果があるのだとききました。

小さな小さな頭は白い頭巾のようなもので半分覆われ、細い腕にも背中にも頬にも口もとにも絆創膏でとめられた管が這っています。生命維持のための装置が施されているのです。必死で生きようと頑張っている愛しい小さな幼子は、痛ましくすじ張った細い腕と小さなこぶしを父の裸の胸に押しつけて、しがみつくようにうつ伏せにべったりとくっついています。

それは決して決してここから離れないのだというたった一つの意志を、全身で表しているようにみえました。目を閉じて我が子を抱く孫の方もこれまでに一度も見たことがない顔つきで、私は激しく胸を衝かれました。

いつもは今ふうの若者らしいお洒落な雰囲気でも明るくおしゃべりをするのですが、写真はまるで瞑想中の僧のような静寂があり、その姿はまっすぐにこちらを射てくるものがあり、凝視せざるを得ないもの、神聖で侵しがたいものを感じさせます。しかし最もふさわしく表現するなら、もはやどうすることもできない深く清い悲しみというに尽きると思いました。悲しいとしか言いようのない切ない愛おしさが写真全体を満たしているのです。

私はミサに与るとき、いつもこの祈りそのもののような写真を携えました。

ひ孫のいのちは主の受難と死と復活の記念にいく度も与り、聖堂に集まる人々の祈りの内で人々とともに神さまのいのちをいただき続けてきたと信じています。

ある日のこと夜明け前にふと目が覚めて、内奥から湧き上がるさまざまな想念におされ再び眠ることができなくなってしまい、あれこれ考えたりあれこれ思ったりしていました。この写真のことも思い描きながら、小さなひ孫のこと、父となった孫のこと、祖父となった息子のことなど、つらつらめぐらしめぐらししていたのですが、去来する想念の中、突如どこか遠くの方から現れてきて不意に目の前に立ちはだかったものがありました。それは「ピエタ」でした。

十字架の下に立ち、最愛の我が子の死を見届け心に収め、十字架から降ろされた我が子の亡き骸を抱く悲嘆のマリアの姿です。至高の悲しみの像です。

普通に考えるなら「ピエタ」像と、裸の我が子を抱く孫の写真は、むしろ反対のものというのですが、私の深いところでこの生と死はこの時違和なく重なりました。

初めてこの写真を見た時の衝撃が思い起こされ、それは「ピエタ」を見るたびに味わう衝撃ととても似かよっていると気づいたのです。　　どういったらいいのでしょうか、この身が清められるほどの深い悲しみです。　　悲しみはあまりにも悲しすぎるときその底は打ち抜かれてしまい、落ちて落ちて果てのない広やかさに明けるような気がしています。一方よろこびも極まるときには悲しみの相と重なるようです。

生も死もキリストの死（愛）という極限をもってひとつのものとなっていくのだと思っています。　「ピエタ」と一葉の写真の重なりは私に深い安堵をもたらしました。

そう云えば我が子を抱く孫の写真には、端の方にLOVEという字幕がありました。　どんな思いで書き入れたのでしょうか。「あんな・・参ったよ・・もう・・」殆ど言葉になっていないことばを呻くように低くつぶやいた孫の声が耳に残っています。

夜明け前の暗闇の中、私はマリアさまに抱かれるようにして内なるすべてを差し出し托しました。　「主おん身とともにまします——。」

いのちの言葉 5月

・・・キリストに代わってお願いします。
神と和解させていただきなさい

(コリントの信徒への手紙二 5・20)

聖パウロがコリントの共同体の人々に向けたこの勧告は、「神がキリストによって世をご自分と和解させてくださった」(*1)という、福音全体の中心となる偉大な事実を告げた後に語られています。

神様は、御子の十字架上の死を通して、ご自分の愛の最高の証しをしてくださいました。つまり、キリストの十字架によって、私たちをご自分と和解させてくださったのです。

この真理は、私たちの信仰の土台であり、今日においても何も変わりません。神様が愛をもってすべての人の傍らにおられ、一人ひとりを限りなく愛しておられることが示されるのを、全人類が待ち望んでいます。世はこの知らせを必要としていますが、まず私たちが自分自身に向かってそれを繰り返し告げ知らせることが必要です。そしてすべてが反対のように思える時でも、神様の愛に包まれているのを感じることができれば、私たちは人々に神様の愛を告げ知らせることができるでしょう。

・・・キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。

しかし、この神様の愛に対する信仰は、自分の心の中だけにしまっておくものではありません。聖パウロが言うように、キリスト者一人ひとりには、神様の愛をすべての人に証しする大きな責任を委ねられ、「和解のために奉仕する任務を私たちに授けになった」(*2)からです。そのためには、どうすればいいのでしょうか？

私たちの行いすべてが、言葉で伝えている真理の裏付けとなるようにすることです。イエスも「もし兄弟が自分に反感を持っているなら、祭壇に供え物を捧げる前に、まず兄弟と和解しなければならない」(*3)とはっきり言われました。

私たちは何よりもまず、家庭、グループや団体、教会など、自分の属する共同体の中でこれを実行できるでしょう。私たちは、人々や民族の一致を阻む、すべての壁を崩していくように招かれているからです。

・・・キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい

「キリストに代わって」とは「キリストの立場に自分を置いて」という意味です。キリストの代理者として、彼と共に、彼のように生きましょう。心を閉ざしたり偏見を持ったりせず、心を開いて隣人の良いところを目をとめ、それを尊重しながら、相手のために命を与える覚悟で、キリストが私たちを愛されたように愛し合ひましょう。

これこそ、イエスの最高の掟であり、初代キリスト者の時代と同様、今日も私たちがキリスト者であることを示す特徴です。

このみ言葉を生きることが、和解をもたらす人になることを意味しています。

私たちのふるまい、言葉、態度の一つ一つが愛に満たされているなら、それはキリストご自身がなされたことのようになるでしょう。そして私たちは、キリストのように、喜びと希望、一致と平和をもたらす者、つまり、すべての被造物が待ち望んでいる、神と和解した世界(*4)をもたらす者となれるでしょう。

キアラ・ルービック

* 今月の言葉は 1997 年 1 月に発表されたものです。

*1 ニコリント 5・19 参照

*2 ニコリント 5・18 参照

*3 マタイ 5・23 - 24 参照

*4 ニコリント 5・19 参照

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 5月11日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室
(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)
中部 5月11日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」
長崎 5月25日(日) 14:00~長崎 カトリック浦上教会 要理教室

*詳細は各フォルム・センターまで。

連絡先

フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（176）



私たちの旅をよく過ごすこと

死は新しい生への旅なのです。これは、とてもきれいに聞こえますが、私たちの中で、ほとんどの人はこの旅をしようとは望みません。私たちの最後の旅の前に、多くの旅が先行することに気づくことは、助けになるかもしれませんが。私たちが生まれる時は、胎内の生から家族の生へと旅するのです。学校へ行くようになる時は、家族の生からより大きな共同体への生へと旅するのです。結婚する時は、たくさんの選択肢のある生から一人の人に献身する生へと旅するのです。退職する時は、はっきりと定められた仕事の生から新しい創造性と知恵が求められる生へ旅するのです。

これらの旅の一つひとつが、新しい生へと導く一つの死なのです。私たちがこれらの旅をよく過ごすならば、私たちは最後の旅に対してよりよい準備していることになるのです。

(0822)

準備の状態を生きること

神からくるものはすべて、開かれた誠実な心を要求しています。私たちが準備の状態を生きていないならば、終わりの時において希望と喜びをもって生きることができません。使徒ペトロが言っているように、「あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食い尽くそうと探し回っている」（1ペト 5・8）のですから、注意深くなければなりません。それゆえ、イエスは、こう言われます。「放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないように注意なさい。…あなた方は、起ころうとしているすべてのことから逃れて、人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈りなさい」（ルカ 21・34-36）と。イエスの霊の内に生きることが、私たちが招かれていることのすべてなのです。

(0918)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

福者クリアコス・エリア神父の列聖近づく

2014年4月6日

教皇フランシスコは、「汚れなきマリアのカルメル会」の創立者、福者クリアコス・エリア神父の取次ぎによる奇跡を承認されました。福者クリアコス・エリア神父は1805年2月10日にインドのケララ州カイナカリに生まれ、そして1871年にコオナムマヴで亡くなりました。

彼は1818年に小神学校に入り、1829年に司祭に叙階されました。また「汚れなきマリアのカルメル会」の創立者の一人で、初代の総長でした。彼は1831年に同会の最初の修道院をマンナナムに建設し、1855年に彼が創立した会の誓願をたてました。

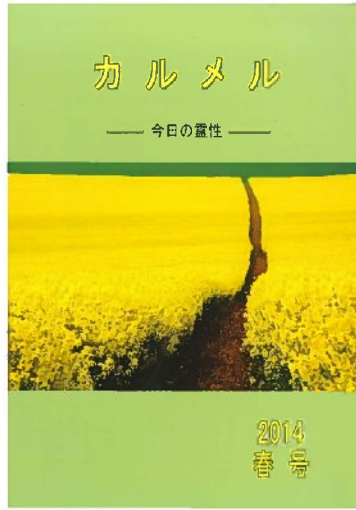
さらに1866年に「カルメルの母の姉妹会」創立のために働きました。1861年からシロ・マラバル教会の司教総代理となり、ロチョの教会分裂において教会一致のための擁護者として尽力しました。

彼は、生涯、シロ・マラバル教会の霊的刷新のために尽くしました。何よりも偉大な祈りの人であり、聖体礼拝と聖体賛美、汚れなきおとめマリアへの信心を堅持し、人々に広めました。

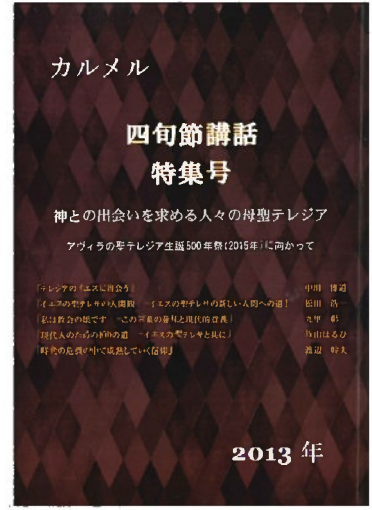
彼の遺体は、1899年以来、マンナナムに移され、そこに永眠しています。



「カルメル」
今日の霊性・春号
四旬節講話特集号



2014 春 No.352



カルメル 2013 特集号
「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

| | | | |
|--------|------------------------|--------------|----|
| ● 目次 ● | テレジアのイエスに出会う | 中川博道 | 2 |
| | イエスの聖テレサの人間観 | 松田浩一 | 12 |
| | —— イエスの聖テレサの新しい人間への道 | | |
| | 「私は教会の娘です」 | 九里 彰 | 24 |
| | —— この言葉の意味と現代的意義 | | |
| | 現代人のための祈りの道 | 片山はるひ | 37 |
| | —— イエスの聖テレサと共に | | |
| | 時代の危機の中で成熟していく信仰 | 渡辺幹夫 | 51 |
| ○ 目次 ○ | ● (今年の特集 聖テレジアと他の聖人たち) | | |
| | 自分の内に生きることなく生きる (1) | 九里 彰 | 3 |
| | —— テレジアの詩とヨハネの詩 | | |
| | 二人の聖テレジア | 伊従信子 | 9 |
| | —— イエスの聖テレサと幼きイエスの聖テレサ | | |
| | エディット・シュタインと聖テレサ (1) | 須沢かおり | 18 |
| | —— 回心とカルメルへの道 | | |
| | 修道院の窓から | 原 造 | 25 |
| | —— 背中は語る (3) | | |
| | 聖なる冒険 | ボウリン・フェルナンデス | 28 |
| | —— モーセ | | |
| | ローマ物語 | 高橋重幸 | 35 |
| | —— ローマでの養成 | | |
| | 西行と芭蕉の霊性 | 田畑邦治 | 40 |
| | —— 「おくのほそ道」の旅から (2) | | |
| | 老夫婦は連れだって散歩に | 森 みさ | 47 |
| | 神が慈しまれた道 (1) | 奥村一郎 | 53 |

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

| | | |
|--------|----------------|---------|
| 9月11日 | 聖体の秘跡 | ベルナルド神父 |
| 10月9日 | 人となられたみことば | カルメル会士 |
| 11月13日 | 神に生かされて貧しさを生きる | カルメル会士 |
| 12月4日 | 無原罪のマリア | カルメル会士 |
| 2015年 | | |
| 3月5日 | 洗礼と主の晩餐 | 福田正範神父 |

2. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

お申込みは3か月前からお受けします。どなたでも参加できます。

| | | |
|--------|-------------------------------|--------|
| 7月4日 | カルメル山の聖母 | カルメル会士 |
| 10月31日 | 永遠の命への憧れ 聖テレジア | カルメル会士 |
| 2015年 | | |
| 1月16日 | 聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン) | 福田正範神父 |

3. 奉献生活者の為の黙想会

| | | |
|---------------|--------------|--------|
| 8月1日(金)18時～ | 8月10日(日) | 福田正範神父 |
| 8月15日(金)18時～ | 8月24日(日) | カルメル会士 |
| 10月10日(金)18時～ | 10月19日(日) | 福田正範神父 |
| 12月27日(土)18時～ | 2015年1月5日(月) | 福田正範神父 |

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月22日(土)15時～24日(月・振休)16時

5. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

9月13日(土)15時～15日(月・振休)16時

6. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

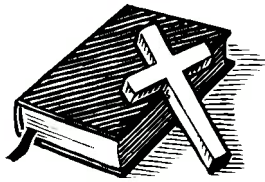
初日の夕食は済ませてご参加下さい。

5月23日(金)20時～25日(日)16時「聖霊と祈り」

11月1日(金)20時～3日(月)16時「慈しみの愛と祈り」

7. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》



※) 注 2014～15年の予定は、今後変更の可能性があります。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会 《わたしは神をみたい》

聖霊 と 祈り

2014年5月23日（金）20時～25日（日）16時

わたしは父が約束されたものをあなたがたに送る。

高い所からの力に覆われるまでは、都にとどまっていなさい。

（ルカ 24・49）



神は聖霊の賜物によって かなり頻繁に

そして深く介入されるので その人は 神とほとんど常に
関わっていることができるようになります

『わたしは神をみたい』

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ、ocd—

- 指 導： 伊従 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
 - 持 参 品： 新約聖書、『いのりの道—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師と共に』
聖母文庫（黙想の家で購入できます。）筆記用具、パジャマ
 - 参加費：
 - 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158 - 0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 Tel. 03-5706-7355
- 申し込み方法 FAX 03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申し込みください。

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2014年～2015年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

| | | | |
|--------------------|-------------------|--------------|--------|
| ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 1月 11日(土)～ 12日(日) | 念祷生活 | 今泉健神父 |
| | 5月 24日(土)～ 25日(日) | キリスト教の人間共同体 | 松田浩一神父 |
| | 7月 12日(土)～ 13日(日) | 聖母マリア | カルメル会士 |
| | 9月 6日(土)～ 7日(日) | 神の慈しみの歌 | 松田浩一神父 |
| | 11月 1日(土)～ 2日(日) | 死についての黙想 | カルメル会士 |
| 2015年 | 1月 10日(土)～ 11日(日) | 神の栄光・生きている人間 | 松田浩一神父 |

【聖書深読黙想会】

| | | | |
|-------------------|------------|--|-------|
| ・ 1日 (午前10時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 2月 1日(土) | | 九里彰神父 |
| | 4月 5日(土) | | 九里彰神父 |
| | 6月 7日(土) | | 九里彰神父 |
| | 9月 13日(土) | | 九里彰神父 |
| | 11月 29日(土) | | 九里彰神父 |
| 2015年 | 2月 7日(土) | | 九里彰神父 |

【水曜の黙想】

| | | | |
|-------------------|------------|-------------------|--------|
| ・ 1日 (午前10時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 1月 15日(水) | キリスト信者の祈りのカテキズム | 松田浩一神父 |
| | 2月 5日(水) | イエスの奇跡 | 今泉健神父 |
| | 3月 26日(水) | 四旬節の心 | 松田浩一神父 |
| | 4月 16日(水) | キリストの受難と死 | 今泉健神父 |
| | 5月 14日(水) | キリストの教え(神の救いの御計画) | 松田浩一神父 |
| | 6月 18日(水) | イエスの御心を思う | カルメル会士 |
| | 7月 23日(水) | キリストの教え(神の救いへの参加) | 松田浩一神父 |
| | 9月 17日(水) | 福音的な小さい道 | カルメル会士 |
| | 10月 8日(水) | キリストの教え(神と共に歩む) | 松田浩一神父 |
| | 11月 12日(水) | 死者の月に祈る | カルメル会士 |
| | 12月 17日(水) | テレサと祈り | 松田浩一神父 |
| 2015年 | 1月 14日(水) | 神の国は近づいた | カルメル会士 |
| | 2月 11日(水) | キリストの教え(神と人間の尊厳) | 松田浩一神父 |
| | 3月 25日(水) | 神のお告げ | カルメル会士 |

【四旬節の黙想】

| | | | |
|--------------------|----------------------|--------------------|--------|
| ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 3月 8日(土)～ 3月 9日(日) | 十字架と信仰 | 九里彰神父 |
| | 3月 22日(土)～ 3月 23日(日) | 人間となった神の子へのキリストの信仰 | 松田浩一神父 |
| 2015年 | 2月 28日(土)～ 3月 1日(日) | | |
| | 3月 28日(土)～ 3月 29日(日) | | |

【待降節の黙想】

| | | | |
|--------------------|------------------------|--------|-------|
| ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 12月 13日(土)～ 12月 14日(日) | 神の子の誕生 | 九里彰神父 |

【聖テレーズの黙想】

| | | | |
|--------------------|----------------------|--|-------|
| ・ 1泊2日 (午後5時～午後4時) | | | |
| 2014年 | 9月 30日(火)～ 10月 1日(水) | | 伊従信子師 |

【キリスト教霊的同伴】

| | | | |
|--------------------------|--------------------|--|--------|
| ・ 3泊4日 (午後8時～午後3時) 限定10人 | | | |
| 2014年 | 5月 3日(土)～ 5月 6日(火) | | 松田浩一神父 |

【カルメル青年の集い】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 4月27日(土)～ 4月28日(日)

カルメル会士

11月23日(土)～11月24日(日)

カルメル会士

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 2月8日(土)～ 2月9日(日) 「イエスの聖テレサ的カルメル霊性 NO. 2」

松田浩一神父

10月14日(火)～10月15日(水) イエスのテレサ生誕500周年開始

松田浩一神父

【奉献生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

カルメル会士

12月27日(土)～ 1月5日(月)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月16日(木)～ 4月20日(日)

{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木)

{講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の、

お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間をお願いいたします。受け付けが休みの場合は、

その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)

【参加費】 各回 6,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話

15:30～ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921 - 8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076 - 276 - 7788



2014年度 名古屋カルメル霊性センター《都会の中の一静修》

2003年から始まりました《都会の中の一静修》は、今年で12年目を迎えることになりました。

カルメル会は、今その聖女、イエスの聖テレサ（アヴィラの聖テレジア）の生誕500年（2015年）を祝おうとしています。そのために、世界のカルメル会は聖女の著作を読み返しながら、その霊性を味わおうとしています。

幸いなことに、日本のカルメル会も、昨年および一昨年の四旬節講話で、聖女の霊性をいろいろな視点で味わい深めて、参りました。それらを振り返りながら、いろいろな切口で、聖女の霊性の中に浮かび上がるカルメルの霊性、さらにはキリスト者としての霊性を味わい深めることができたらと願っております。

《2014年度の年間テーマ》

「聖テレジア（アヴィラ）の私たちへのメッセージ」

—2015年：生誕500年に向かって—

- 第1回静修 1月13日（月・祝） 『テレジアが出会ったイエスを訪ねて』
中川博道神父（上野毛修道院）
- 第2回静修 3月1日（土） 『靈魂の城』
今泉健神父（宇治修道院）
- 第3回静修 5月31日（土） 『小品集』
古川利雅神父（上野毛修道院）
- 第4回静修 7月21日（月・祝） 『私は、あなたのために生まれた』：
：人間の召命に生きる 松田浩一神父（宇治修道院）
- 第5回静修 9月23日（火・祝） 『アヴィラの聖テレジアと祈り』
Sr. Paulne（宣教カルメル会修道院）
- 第6回静修 11月3日（月・祝） 『テレジアと出会った十字架の聖ヨハネ』
九里彰神父（本部修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分
聖テレジア幼稚園隣接)
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当など
- * 定員 約30名

- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 13:00～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☎申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELなどを記載の上、
(信徒の方は所属教会も記入)開催日の3日前までに、下記へご送付ください。

なお、日比野教会で葬儀などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆カルメル会日比野修道院

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17
FAX 052-671-1825

☆ 問い合わせ先

小林 TEL052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター

真命山 霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

サダナ瞑想

コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエイト

慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご紹介下さい。

よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

- N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 6/13 (金) -6/15 (日) **研修会** 東京・小金井・聖霊会 2泊3日
T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子御受難会
K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
S2 10/5 (日) -10/11 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
N3 10/26 (日) -11/1 (土) 滋賀唐崎・ノートルダム
K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会

2015年予定

- K5 11/29 (土) -12/05 (金) 東京・小金井・聖霊会
K1 1/17 (土) -1/23 (金) 東京・小金井・聖霊会
M1 2/7 (土) -2/13 (金) 宝塚売布・女子御受難会

祈りの集い (午前10時～午後3時)

真命山の霊性

「聖母マリアと共に祈る」



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 1月 9日 | 天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り |
| 2月13日 | エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り |
| 3月13日 | 神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り |
| 4月10日 | 羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り |
| 5月 8日 | 聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り |
| 6月12日 | 聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り |
| 7月10日 | 聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけた時の聖母マリアの祈り |
| 8月 | 休み |
| 9月11日 | ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り |
| 10月 9日 | イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り |
| 11月13日 | イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り |
| 12月11日 | イエスの弟子たちと共に祈られた時の聖母マリアの祈り |

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
(要予約)

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
 どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
 9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、
 各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2014年度のテーマ: 超越理解と理性の自己発見
 ー II 近世・近代・現代
 「中世: 哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
 [中世末期]
 05/17,05/24,05/31,06/14,06/28,07/05,07/12,07/26,09/06,09/13,09/27,10/18,10/25,11/08,11/15,11/29,12/06,12/20, 2015年
 01/10,01/17,01/24,01/31,02/07

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月12日は休み。8月26日は、クルトゥルハイム聖堂

・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
 どなたでも。但し祝日、8月5日は休み。

・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。

どなたでも。但し祝日、4月30日、7月30日、8月全体、12月24日は休み。

・「通う霊操」8月23日(土)～8月31日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。

5月24日、6月14日、7月5日、8月16日、9月13日、10月18日、11月15日、12月6日、
 2015年1月10日、2月7日、3月14日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●黙想会

[1泊6,600/7,000円程度

[関東]

2014年

05月10日(土)10時～11日(日)14時(上石神井)、

10月11日(土)10時～12日(日)14時(東村山)

11月22日(土)10時～23日(日)14時(東村山)、

2015年

02月28日(土)10時～3月1日(日)14時(上石神井)。

[関西]

10月4日(土)13時30分～5日(日)15時(宝塚)。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分

・木曜日 17時30分～20時10分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。

但し祝日、4月17日、4月28日、5月1日、7月31日、8月全体、9月22日、12月29日は休み。

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。

04月28日(月)20時30分～5月5日(月)10時

06月20日(金)20時30分～22日(日)10時

08月08日(金)20時30分～15日(金)10時

09月19日(金)20時30分～23日(火)10時

10月31日(金)20時30分～11月3日(月)10時

[関西]

7月30日(水)17時45分～8月5日(火)15時、宝塚市。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。

6月28日(土)、10月25日(土)、2015年1月25日(日)

・黙想会(アガペ会会員対象)6月7日(土)10時～8日(日)14時(東村山)、1泊6,600円程度。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2014年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

- 05/02 ○休み
05/09 旧約聖書の神体験— 聞くことと見ること
05/10-11 ●黙想会(上石神井)
05/16 理性と神認識の道— 世界内存在を通して
05/23 創造された世界— 人間存在の根拠と自然の意味
05/30 歴史と信仰— 神との出会い
06/06 内なる神— その「似姿」としての人間
06/13 新約聖書の神理解— 主なる父
06/20 祈りによる神理解— 神の偉大さと近さ
06/27 救い主の役割— 人類の待望
07/04 神の国— イエスの告げるメッセージ
07/11 イエスの生き方— 神に遣わされて人に仕える
07/18 イエスのたとえ話— 神の働きを語る
07/25 イエスの人間関係— 罪人と弟子と共に
07/26 ◆感謝のミサ(14時、上智大学内クルトゥールハイム2階、80人限定)
08/01,15 ○休み
08/08 イエスは誰か— イエスの自己理解(上智大学内クルトゥールハイム2階)
08/22 最後の晩餐— 自分を与えるイエス(上智大学内クルトゥールハイム2階)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)(上智大学内クルトゥールハイム2階)
08/29 イエスの受難— その史実と意図(上智大学内クルトゥールハイム2階)
09/05 イエスの死— その救済的意義
09/12 聖書のイエス像— ヨハネとパウロの見たイエス
09/19 イエスの復活— 今に生きるイエス
09/26 聖霊— 神の愛に導かれる

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2014年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

- 04/29, 5/6 ○休み
05/10-11 ●黙想会(上石神井)
[人間]
05/20 人間: 神の似姿 — 理性・自由・信仰
06/03 救いの歴史 — 時間における意義
[神]
06/17 無限への問い — 理性による神理解
07/01 世界の根源 — 創造的自由・進化・摂理
07/15 人生のうちに働く超越 — 神経験の多様な形
07/26 ◆感謝のミサ(14時、クルトゥールハイム2階、80人限定)
7/29 「私は在る」 — 旧約における神の自己啓示と預言
08/05 ○休み
08/19 神の語りかけ — 「契約」と「救い主」の待望(クルトゥールハイム2F)
08/23-31 ●通う霊操(18時-20時45分)
09/02 将来の約束 — 自立した世界の中の導き
[イエス]
09/16 史的イエス — 活動と生き方の特徴
09/30 神の国 — イエスの使信
10/07 根本たる愛 — 律法の完成と克服

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」 すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

5月31日 「慈しみの愛」
6月21日 「ご聖体と祈り」

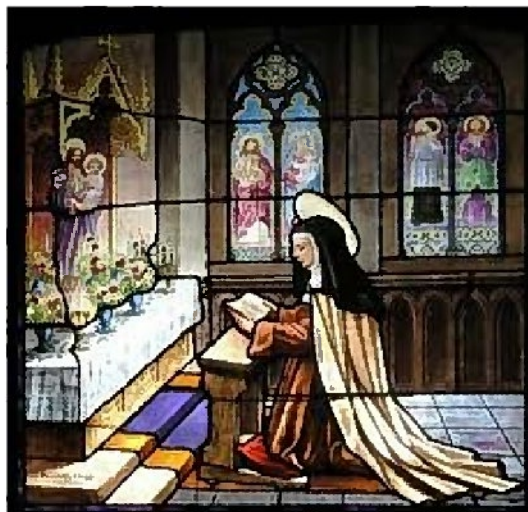
講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主よ、お話してください。僕は聞いております。
話される方である主

2014年度 第一回 召命黙想会

日時： 6月 14 日(土) 15:00~

15 日(日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
(JR 京都駅から 30 分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000 円

締切： 2014年6月8日(日)まで

<申込み・問い合わせ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr.桂川

Tel: 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email: Karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

| コース | 日時<指導者> | 指導者 | 開催場所 | 申込み |
|-------------------------------|--|-------------|--|-----------------------------------|
| 自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4日 | 5/10(土)9:30- 11(日)17:00 5/17(土)9:30- 18(日)17:00 | Fr植栗 | 上石神井黙想の家 | 若山美知子※ Tel&Fax 03-5802-3844 |
| ダイアリー | 5/28(水)17:30- 6/1(日)16:00 | Fr植栗 | 沖縄・聖クララ修道院 Sr 比嘉 Tel:098-945-8649 Fax:098-945-8720 | |
| 入門 B | 6/8(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | 援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷) | 若山美知子※ |
| 日帰り フォロー アップ | 6/15(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | 援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷) | 若山美知子※ |
| 入門 C | 7/13(日) 9:30-17:00 | Fr植栗 | 援助修道会リヒト宣教室 (市ケ谷) | 若山美知子※ |
| サダナ I | 7/18(金)17:30- 21(月)16:00 | Fr ラフォント | 女子御受難会修道院 (宝塚市) | 大倉本子 Tel 078-811-2706 |
| 霊操と I | 8/17(金)17:30- 26(火)朝 | Fr ラフォント | 西日本霊性センター(長束黙想の家/広島市) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036 | |

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門 A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



《一日静修へのおさそい》

テーマ 「アヴェ・マリアを生きる」

指導 中川 博道師(カルメル修道会)

日時: 5月31日(土)10:00~16:00 受付 9:30~

場所: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

対象: 男女・年齢を問わず、どなたでもどうぞ

会費: 2,000円(昼食代を含む)

申込: 事前の申込みは不要です。

直接修道院において下さい。

問合せ: コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

〒182-0034 調布市下石原 3-55-1

☎ 042-482-2012 (平日 9:00~17:00まで)

主催: コングレガシオン・ド・ノートルダム アソシエイト

*京王線調布駅下車。中央口より徒歩20分(タクシー5分)。

*マルガリタ幼稚園と同じ敷地内にあります。

(4月号では北口、南口から・・・となっていたようですが、中央口と訂正させていただきます。)



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

6月12日(木) 『靈魂の城』第6の住居・第4章
9月11日(木)、11月13日(木)

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります。
すでに大分読み進んでおりますが、途中からの参加もかまいません。

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

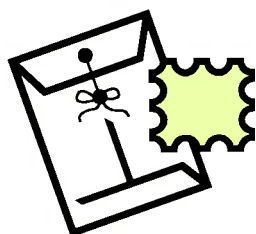


九里彰神父（カルメル会日本管区長）

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、私たちカルメル会の最長老、ペトロ・アロイジオ神父が帰天した。8月の誕生日に満百歳を迎えるところであった。ちなみに、カルメル会では日本ばかりでなく、全世界においても最長老であった。

私が宇治修道院（修練院）いた時のこと。院長はアロイジオ神父で、副院長はサンテ・ボナルド神父。二人は対照的で、アロイジオ神父は寡黙で静か、威厳があり、近寄りがたいところがあったのに対し、ボナルド神父はいつもニコニコと気さくで、笑いながらよく冗談と皮肉を言った。食堂でもボナルド神父は賑やかで、よくしゃべり、みんなを笑わせていたが、アロイジオ神父は「沈黙は金なり」といった感じで、ボナルド神父が冷たい水を好んで飲むと、その隣でアロイジオ神父が暖かいお茶を飲むという具合であった。

ある時、話の経緯はもう思い出せないが、ボナルド神父がアロイジオ神父を指さしながら、「この人は永遠に生きるつもりだよ！」と言った。みんなは、どっと笑ったが、そう言ったボナルド神父がこの世を去って早 18 年。永遠に生きると思われたアロイジオ神父も、ついにこの世を去った。

1953 年に来日し、日本の男子カルメル会を築いてくれた大功労者である。修道生活を最後まで愛したアロイジオ神父は、今度は天から日本のカルメル会のために取り成してくれることだろう。合掌！

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「6月号」製本日

5月27日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171